

授業科目名 (英文名)	外書演習 (Advanced seminar)	科目区分 対象学生	
単位数	4.0	開講年次・ 学期	2
担当教員	加納 郁也	所属	経営学部
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>本演習の目的は、海外の大学や企業で研修を行うことによって、グローバル人材に必要なマインドを理解するとともに、海外企業（日系企業、現地企業）に関する基礎的知識を習得し、グローバル人材としての知識を深め、スキルを高めることである。本演習は、「海外の企業で働くためには何が大切なのか」、「日本企業のマネジメントと海外企業のマネジメントはどこが異なるのか」といった点に関して理解を深めることを主目的とした「経営学の海外研修」であり、いわゆる語学力向上を目的とした海外研修とは異なる。</p>		
講義内容・授業計画	<p>1．講義内容</p> <p>本演習は、事前学習、海外研修、研修成果報告書（レポート）の3パートからなっている。前期の事前学習では、経営学、特に人的資源管理や組織行動に関する基礎知識の習得、研修訪問予定国の文化・経済・歴史等に関する基本情報の理解、および研修訪問先企業の事前調査等の準備を行う。</p> <p>こうした準備を経て、9月（日程については調整中）に一週間程度の海外研修を実施する。研修終了後はチームごとに調査結果報告を行い、受講者それぞれが研修成果報告書を作成する。</p> <p>2．授業計画</p> <p>前期：4月～8月 経営学（特に組織行動論や人的資源管理論）の学習 研修訪問国の文化・経済・歴史等に関する学習 研修訪問企業に関する事前調査等 および海外研修準備全般</p> <p>9月 海外研修実施（一週間程度）</p> <p>10月～1月 グループワークによる調査・分析結果報告および成果の共有化 研修成果報告書作成</p>		
テキスト	必要に応じて演習中に適宜指示する。		
参考文献	開本浩矢編著（2014）『入門 組織行動論（第2版）』中央経済社 その他の文献については、演習中に適宜指示する。		
成績評価の基準・方法	<p>成績評価の基準</p> <p>1．事前学習時の態度と貢献度 30%</p> <p>2．海外研修中の態度と貢献度 40%</p> <p>3．研修成果報告書の内容 30%</p> <p>の3点で評価する。</p> <p>なお、海外研修不参加の者または研修成果報告書未提出者については、やむを得ない場合を除いて、成績評価の対象者とはならないので、注意すること。</p> <p>成績評価の方法</p> <p>講義目的および到達目標に記載する知識レベル・思考能力・実践への応用能力の到達度に応じて、SからCまでの範囲で成績をつける。</p>		
履修上の注意・履修要件	履修上の注意については、10月22日(月)昼休みに開催予定の事前説明会および研究室訪問時に詳細に説明するので、事前説明会には必ず出席し、設定される期間内の研究室訪問も必ず行うこと。コース発表日の昼休みに説明会を実施することになりそうなので、研修希望者は欠席しないように注意すること。		
実践的教育	該当する。		

備考

担当教員の専攻は組織行動論、人的資源マネジメントです。経営学のなかでも「人」の心理や行動に関する研究領域です。本演習でも「組織のなかの人の心理や行動」に関するテーマを中心に扱います。